



高島市

オリーブオイルテキスト

Vol.10



令和4年12月 高島市農業政策課

いまや食卓にかかせないものとなりつつあるオリーブオイル。
高島市では令和2年度からオリーブ産地化促進事業を進めています。
オリーブとオリーブオイルに関する情報をQ&A形式でお知らせする
オリーブオイルテキストの10回目です。



日本でのオリーブ栽培はいつから始まったのでしょうか？

→ 明治40年頃、鹿児島・香川（小豆島）・三重の3県で
試験植樹が始まりました。

当時は魚の缶詰にオリーブオイルを
使う目的で試験植樹がおこなわれ、
小豆島のみが栽培に成功しました。



ソムリエ・メモ
from sommelier



日本にオリーブオイルが入ってきたのは、16世紀末にポルトガル人が揚げ油として紹介したのが最初といわれますが、当時は高価すぎて定着しませんでした。その後、明治40年頃になって国内栽培を目指した植樹が行われ、そこで栽培に成功したのが現在でもオリーブオイルの産地として有名な小豆島です。現在では北海道から九州まで日本各地で、搾油を目的としたオリーブ栽培がされるようになりました。（オリーブの花がつくためには冬の寒さが必要なので沖縄ではまだ成功していないようですが、庭木のオリーブにいくつか実がついたという報告はあります。）

世界で見ると、小アジア地域では遅くとも1万年前には人工的な栽培が始まっていたようで、その後、地中海周辺地域で盛んに栽培されるようになりました。エジプト文明では、オリーブに関する最古の記述として紀元前12世紀のパピルス文書が残っています。古代ローマでは紀元前3世紀頃にはオリーブオイル専用の取引市場や交易船隊があり、すでにオリーブオイルの格付けも存在していました。また、聖書やコーランの中にもオリーブオイルが登場します。



世界で最もオリーブオイルを生産している国は？

→ 近年の最多生産国はスペインです。

オリーブオイル生産国のイメージが強いのはイタリアですが、例年その2倍以上の生産量を誇っているのがスペインです。



スペイン、イタリア以外にも、ギリシャやトルコ、チュニジアなどがトップ5の常連となっています。オイル用だけでなくテーブルオリーブを中心に栽培してる国もあり、モロッコ、シリア、アルジェリア、エジプト、ポルトガルなどもオリーブの伝統的な生産国としてあげられます。地中海周辺諸国だけで世界のオリーブ生産量のうち98%以上を占めるというのですから、まさにオリーブの「本場」です。

近年では、アメリカやオーストラリアなどの新規参入国からも上質なオイルが世界中に届けられるようになっており、その他にもアルゼンチン、チリ、ペルー、リビア、ヨルダン、レバノン、パレスチナ、イスラエル、キプロス、フランスなど幅広い地域でオリーブが栽培されています。

アジアにおいては、日本はもちろんのこと、ここ数年の世界コンテストを見てみると、中国の生産者からの出品も増えているのがわかります。

健康ブームの影響もあり、世界的に消費が拡大しているオリーブオイルですが、これまで北半球で10月～12月に行われてきた収穫と搾油が、南半球では4月～6月におこなわれます。これにより、秋に加えて春にも「旬の新オイル」が楽しめるようになりました。

それぞれの国や地域で気候や地理的条件が異なるので、栽培される品種もさまざまです。農場の規模を見ても、家族経営で小規模に生産しているところもあれば、最新の大型機械によって収穫から搾油まで最短40分という驚異的なスピードでハイクオリティなオリーブオイルを出荷している超巨大農場もあります。品種、風土、栽培方法、搾油方法とこれだけバラエティに富んだオリーブオイル。ぜひ世界各国、そして日本各地のオリーブオイルの中から好みのオイルを探す楽しみを味わってください。そして、日々の食生活と健康維持に役立てていただきたいと願っています。

●●● 今回で最終回です。ご覧いただきありがとうございました。 ●●●